

[説明資料(提出ファイル)] 発明・工夫作品コンテスト 製作の動機または目的, 利用方法, 作品自体やその製作過程で工夫したことを, 文章, 写真, 図などで説明。この用紙1枚に記入し, PDFに変換した後, web提出フォームにて提出する。

個人・グループ名	九州産業大学地域貢献実践ゼミナール	大学名	九州産業大学
作品名	積み木であかりのワークショップ実践+カレンダー制作 ～童話「あかりのありか こーきの12かげつ」を教材とした読書感想光～	人数	19名



光源・反射材・遮蔽材について説明



積み木を並べる子どもたちと学生



あかりを灯し作品の良否を確認



反射・遮蔽を工夫し花火大会を表現



グラデーションを活用して虹を表現



教材童話を朗読して作品を披露

私たちは積み木とLEDを教具に、「あかりの良否は光源・反射材・遮蔽材のバランスによる」との知見を子どもたちが学ぶワークショップを企画し、山口県の長門おもちゃ美術館などで実践しています。光源にLED180個(ヤザワ製、プッシュライト3灯、昼白とカラーセロファンを内蔵した赤・青・黄・緑の5色×36セット)、反射材と遮蔽材に積み木2,700個(ブリオ製、ブナ材の白木、形状7種類、50個×54セット)を使用しました。積み木の積み方は無限です。崩れやすい欠点はありますが、多様な形を容易に作れることが利点です。ワークショップでは子どもたちがあかりを鑑賞して「きれいだね」と思うに留まらず、なぜあかりはきれいなのか、どうすればきれいなあかりにできるかを自発的・体験的に考え、「きれいでしょ」と自分自身が作ったあかりを他者に鑑賞させる機会を作ることができました。

山口県での実践2年目の今年、まず子どもたちはこのワークショップ用に書きおろした教材童話『あかりのありか こーきの12かげつ』を読みました。この童話には初日の出(1月)やひなまつりのぼんぼり(3月)、虹(6月)や花火大会(7月)、灯台(8月)やお月見(9月)、ハロウィーン(10月)やクリスマス(12月)など、各月々のあかりやひかり、いりとりどりの行事や現象が、主人公の紙飛行機のこーきの視点で語られています。そこから子どもたちが発想した「読書感想光」を、LEDを中心に積み木を並べたり重ねたりして、積み木を照らす光や積み木どうしの隙間から漏れる光、複数の色を並べたグラデーションを活用して子どもたちが作り、童話を朗読し作品を披露しました。作品は撮影しその写真と童話を配置したカレンダーを作り、参加した子どもたちにクリスマスプレゼントとして届けました。

<p>3 March 2021</p> <p>日 月 火 水 木 金 土</p> <p>7 8 9 10 11 12 13</p> <p>14 15 16 17 18 19 20</p> <p>21 22 23 24 25 26 27</p> <p>28 29 30 31</p>	<p>7 July 2021</p> <p>日 月 火 水 木 金 土</p> <p>4 5 6 7 8 9 10</p> <p>11 12 13 14 15 16 17</p> <p>18 19 20 21 22 23 24</p> <p>25 26 27 28 29 30 31</p>	<p>10 October 2021</p> <p>日 月 火 水 木 金 土</p> <p>3 4 5 6 7 8 9</p> <p>10 11 12 13 14 15 16</p> <p>17 18 19 20 21 22 23</p> <p>24 25 26 27 28 29 30</p> <p>31</p>
--	---	--

カレンダーの事例(3月・7月・10月)左上に作品「積み木であかり」、右上に童話「あかりのありか」、クリスマスプレゼントとして子どもたちに届けた